

【樹木の部屋】

イチジク（クワ科イチジク属 *Ficus carica*）

和名：イチジク（無花果、映日果）

別名：ハウライシ（蓬萊柿）、ナンバンガキ（南蛮柿）、トウガキ（唐柿）

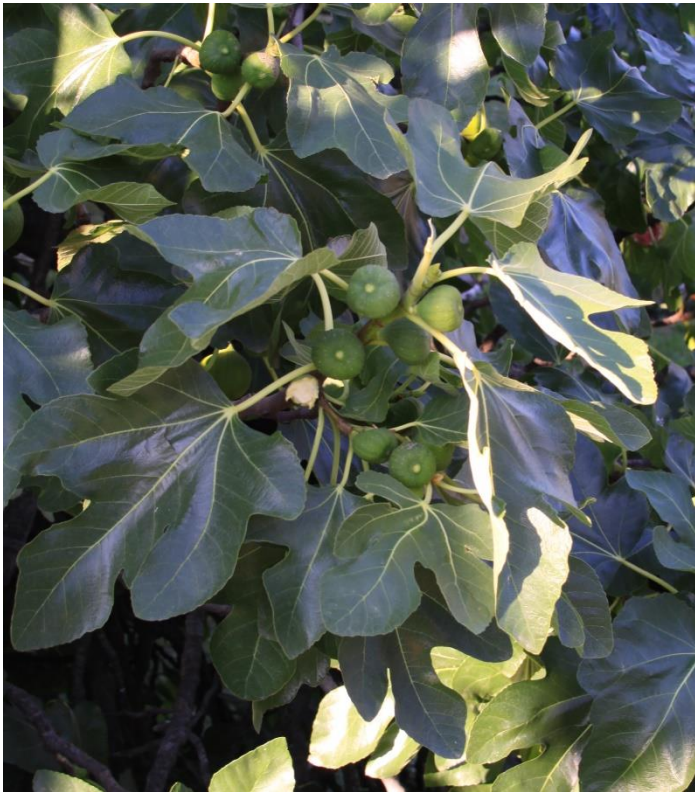
英名：Fig tree、Edlble fig

バラ目 落葉高木

原産地：アラビア南部

花言葉：子宝に恵まれる、多産、実りある恋、豊富、裕福、平安、飽和

花の色：



← 写真-1 イチジク

撮影日：2015年07月11日

撮影場所：サンヴィンサン

（イタリア）にて

撮影者：M さん

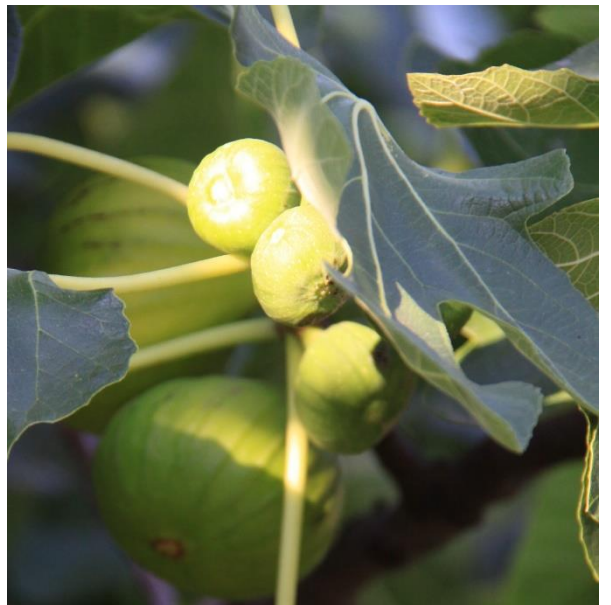
↓ 写真-2 イチジクの瘦果（そうか）

撮影日：2015年07月11日

撮影場所：サンヴィンサン

（イタリア）にて

撮影者：M さん



北イタリアの街、サンヴィンサンでの、宿泊ホテルの近くで見かけました。日本でも、ポピュラーな植物ですが・・・小生が居住している大和郡山市も、多く目にしているので、つい、懐かしく感じ、シャッターを切りました。

イチジクの名は、中国での名前「映日果（エイジツカ）」がなまってイチジクとなったという説と、一日一個ずつ熟すから、

または一ヶ月で熟すから、「一熟」と名がついたという説があるそうです。また、アダムとイブの話の中で出てくる“禁断の果実”とは「イチジク」のこと。

メソポタミアでは、6,000 年以上も前から栽培されているそうです。最近の研究では、ヨルダン溪谷の新石器時代の遺跡から、1 万 1 千年以上前の炭化した実が出土し、イチジクが世界最古の栽培品種化された植物であった可能性が示唆されているそうです。

葉は大型の 3 裂または 5 裂する掌状で互生します。日本では、浅く 3 裂する種類は江戸時代に、深く 5 裂して裂片の先端が丸みを帯びる種類は明治以降に渡来したものだそうです。

イチジクは漢字で書くと「無花果」。花の無い果物のように思われますが、花は咲きます。イチジクを縦半分に割って断面をみると、一番外側には白い果肉の層があり、中央にいくにつれ赤くなり、その先にあるプチプチした粒があります。これがイチジクの種子です。一般に果実として食べる部分は花囊（かのう）といい、6 月ごろ、花囊の中で無数の白い小花を咲かせます。花が外側から見えない事からこの「無花果」の漢字があてられたようです。

イチジク属の植物は、自然では花囊(かのう)内部に、イチジクコバチなどのイチジクコバチ属の蜂が共生しており、受粉を助けていますが、日本で栽培されているイチジクのほとんどがイチジクコバチによる受粉を必要としない単為結果性品種だそうです。

<ちょっと一言>

＊イチジクには、色々な効能があるそうです。

- ・水溶性の食物繊維であるペクチンを豊富に含んでおり、腸の活動を活発にさせ、便秘に効果があるそうです。
- ・カルシウムや鉄分など、血や骨の素となる豊富なミネラル分をバランスよく含んでいます。カリウムは身体からナトリウムを出す働きがあるため、高血圧症の方によいとされています。
- ・フィシンなどの酵素が含まれており、食後に食べると、消化を促進させてくれます。また、お酒を飲んだ後に食べると、二日酔いにもなりにくいとも言われています。

＊単為結果（たんいけっか）

- ・受精が行われずに子房壁や花床が肥大して果実を形成すること。種なしブドウはジベレリンを用いて、種なしスイカは三倍体植物を育成し、それぞれ人工的に種子のない果実を作った単為結果の例。